

① 「見れる」「出れる」を使う人が増えた理由を、文化庁の担当者はどう考えていますか。

短い言葉で話し言葉と書き言葉の使い分けが進んでいる

② 「見られた」と「見れた」、「出られる？」と「出れる？」、あなたは話すとき、それぞれどちらを使っていますか？

どちらが正解ということはありませんので省略します

③ 記事中の表現以外に思いつく「ら抜き言葉」を挙げてみましょう。

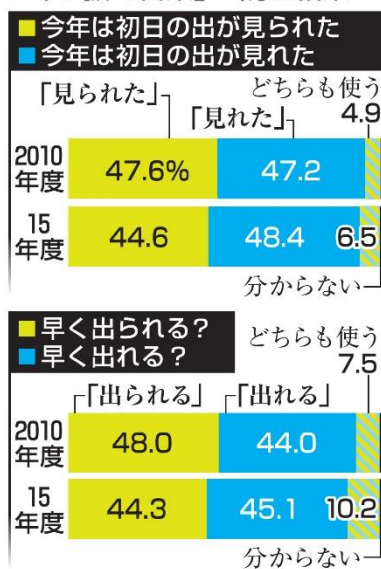
「着れる」「投げれる」など

見れる 出れる

一方、「食べられる」「来られる」「考えられる」の三つは「ら抜き」を使う人の方が少なかった。「日本語を大切にしている」と78・5%が答えており、文化庁の担当者は「言葉の乱れが進んでいるわけではない。新聞など活字で『ら抜き言葉』は使われておらず、特に『見れる』『出れる』

国語世論調査

「ら抜き言葉」の調査結果



「慣用句では「確信犯」の意味を「悪いことであると分かっているがなげなされる行為、または行う人」と答えた人は69・4%で、本来の意味とされる「信念に基づいて正しいと信じてなされる行為、または行う人」の17・0%を大幅に上回った。

「ら抜き言葉」のうち「見れる」「出れる」という表現を普段使う人の割合が、「見られる」「出られる」を使う人をわずかに上回ったことが21日、文化庁の2015年度国語に関する世論調査で分かった。1995年度の調査開始以来、複数のら抜き言葉の浸透度合いを定期的に尋ねているが、使う人が多数派になった例は初めて。

「ら抜き」初の多数派に

「初日の出が見れた」と話している。「初日の出が見れた」を使う人は48・4%（10年度調査47・2%）で、「見られた」は44・6%（同47・6%）。「早く出れる？」は45・1%（同44・3%）で、「出られる？」は44・3%（同48・0%）だ

「日本語を大切にしている」と答えた人のうち「休ませてくださいます」を休ませてくださいと表現する「さ入れ言葉」を使っているのは17・1%。「大切にしないで」と答えた人の11・8%を上回り、言葉を意識するの方が文法を誤る矛盾もみられた。